

3. 子どもと教育について

(1) しつけや教育についての考え方と実際

問7. あなたは、(A) 子どもの育て方についてどのような考え方をお持ちですか。次の(ア) から(ウ)の各項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○印はそれぞれ1つ) ※現在お子さんのいらっしゃる方も、「(A) 考え方」はお答えください。

(B) (子どものいる方に) では、あなたは実際はどのように育てています (育てました) か。次の (ア) から (ウ) の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つ)

(ア) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

「(ア) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という考え方については、『賛成派』(=「賛成」+「どちらかといえば賛成」)が78.7%と『反対派』(=「反対」+「どちらかといえば反対」)(8.2%)を大きく上回っており、男女で育て方を分けることに肯定的な人が多い傾向がみられる。

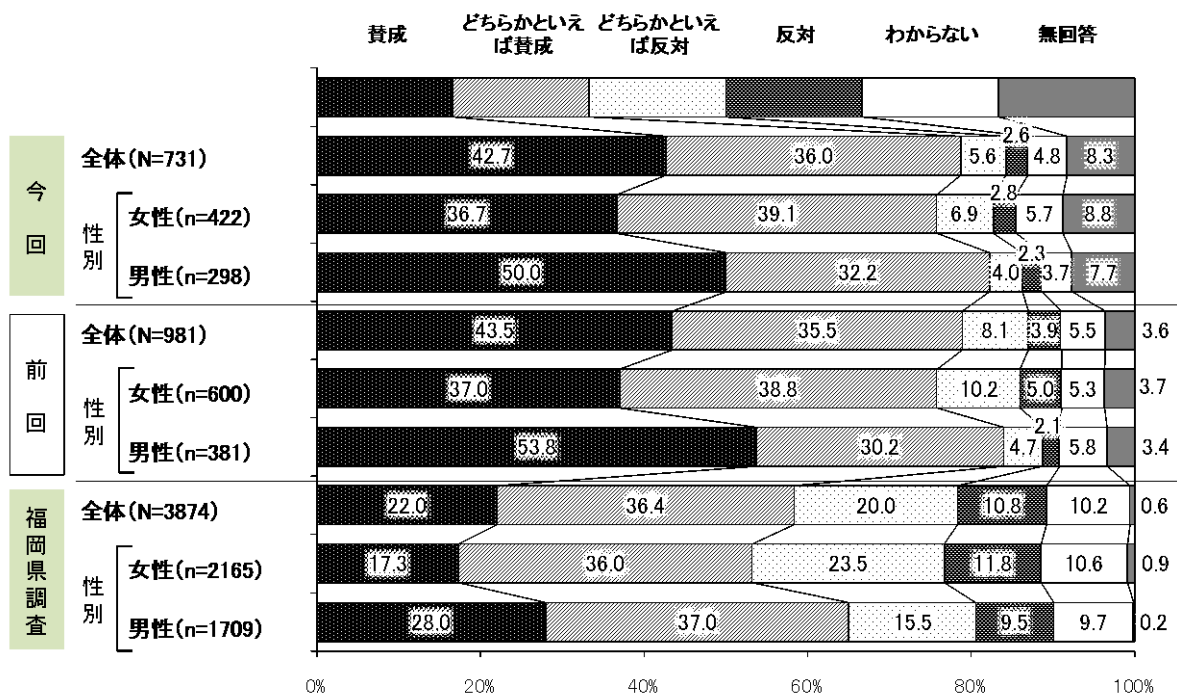
前回調査と比較すると、『賛成派』は前回調査の79.0%からほぼ横ばいとなっている。

性別にみると、『賛成派』は女性が75.8%、男性が82.2%となっており、男性が女性を上回っている。

前回調査と比較すると、『賛成派』は女性は前回調査(75.8%)と同率、男性は前回調査(84.0%)から1.8ポイント減となっているが、大きな差はみられない。

福岡県調査と比較すると、『賛成派』の割合は全体、男女とも県の値を大きく上回っている。

■ (ア) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる【考え方】(全体・性別) ■



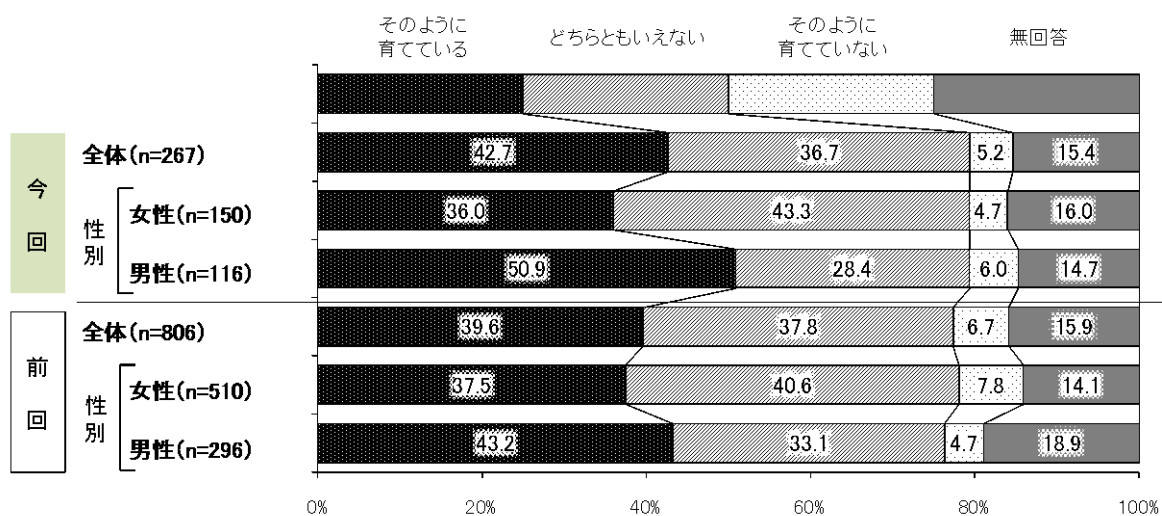
実際の育て方については、「そのように育てている」が 42.7%と「そのように育てていない」(5.2%)の割合を大きく上回っており、男女で異なる育て方をしている人が多い傾向がみられる。

前回調査と比較すると、「そのように育てている」と回答した人は、前回調査の 39.6%とほぼ横ばいとなっている。

性別にみると、「そのように育てている」と回答した人は、は女性が 36.0%、男性が 50.9%となっており、男性が女性を上回っている。

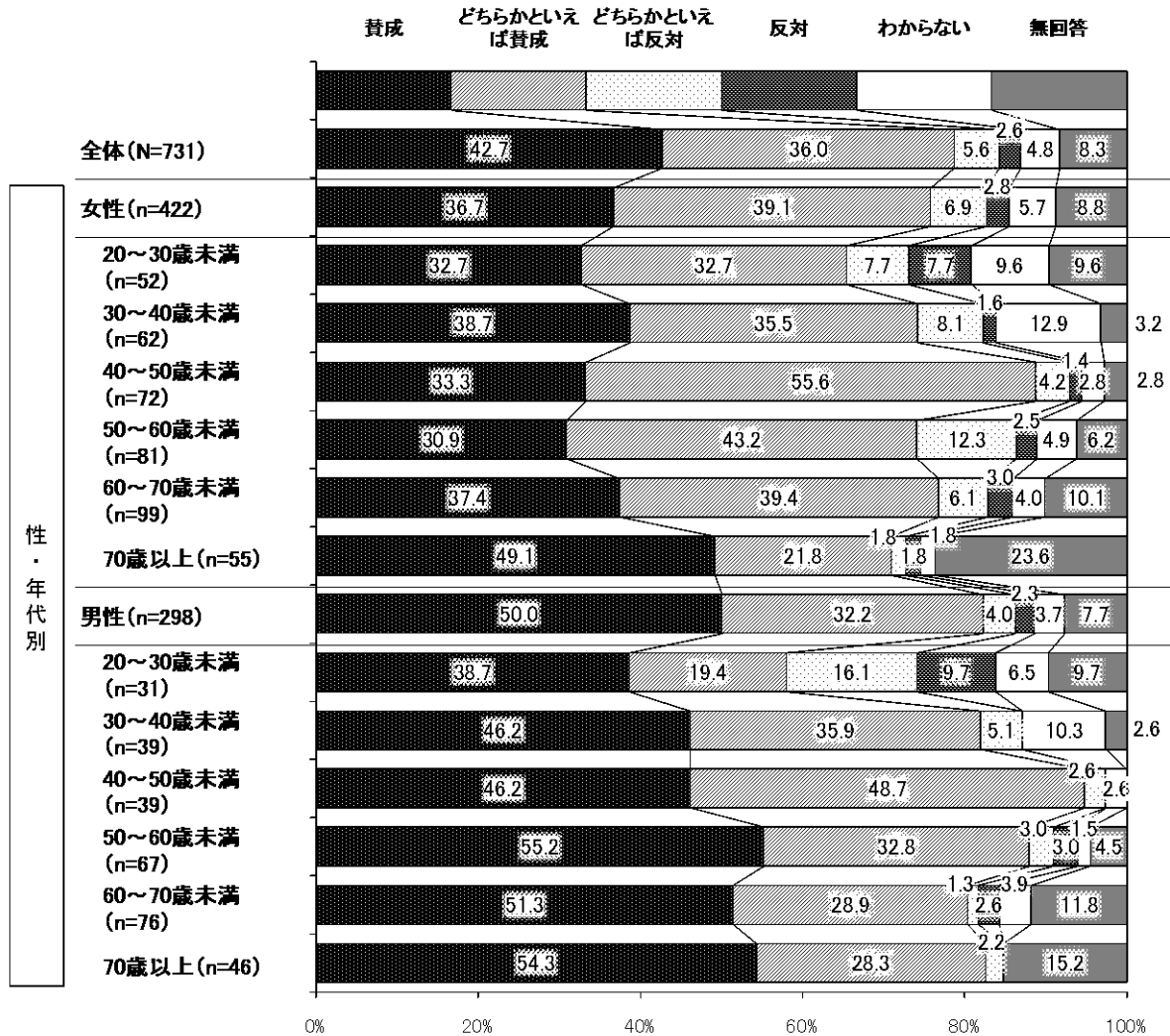
前回調査と比較すると、「そのように育てている」と回答した人の割合は、女性は前回調査の値(37.5%)を若干下回っているが、男性は前回調査の値(43.2%)を上回っている。

■ (ア) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる【実際の育て方】(全体・性別) ■



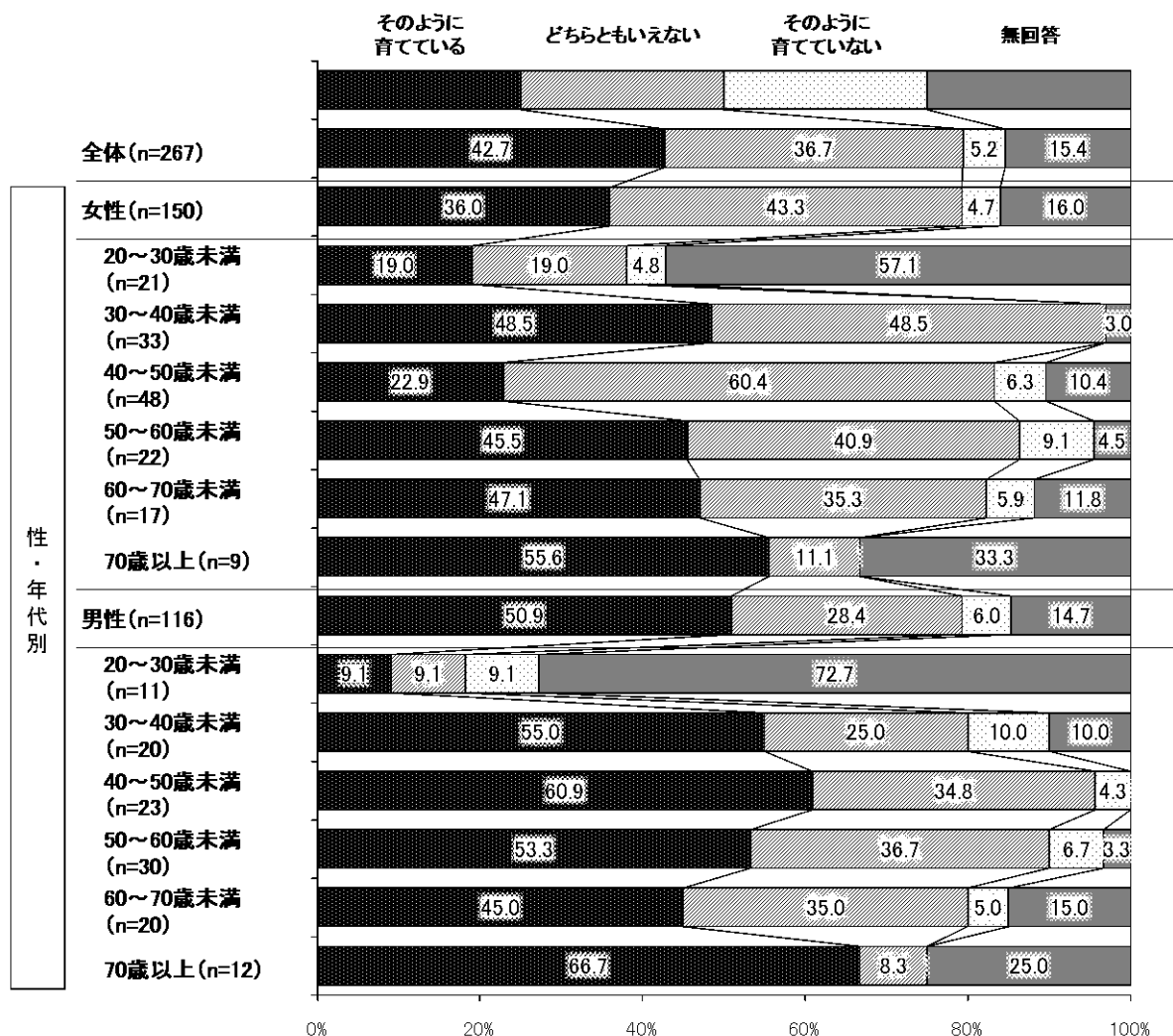
性・年代別に考え方についてみると、女性は『賛成派』の割合が最も高いのが40~50歳未満（88.9%）で、次いで60~70歳未満（76.8%）、30~40歳未満（74.2%）の順となっている。一方で男性は『賛成派』の割合が40~50歳未満（94.9%）、50~60歳未満（88.0%）、70歳以上（82.6%）の順となっており、20~30歳未満のみ男性よりも女性の方が『賛成派』が多くなっている。

■（ア）男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる【考え方】（性・年代別） ■



性・年代別に実際の育て方についてみると、女性は「そのように育てている」と回答した人の割合が最も高いのが70歳以上（55.6%）で、次いで30～40歳未満（48.5%）、60～70歳未満（47.1%）の順となっている。一方で男性は「そのように育てている」と回答した人の割合が70歳以上（66.7%）、40～50歳未満（60.9%）、30～40歳未満（55.0%）の順となっている。

■ (ア) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる【実際の育て方】(性・年代別) ■



(イ) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるように育てる

「(イ) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるように育てる」という考え方については、『賛成派』が 86.6%と『反対派』 2.2%の割合を大きく上回っており、女の子にも経済的な自立を望む人の割合が高い。

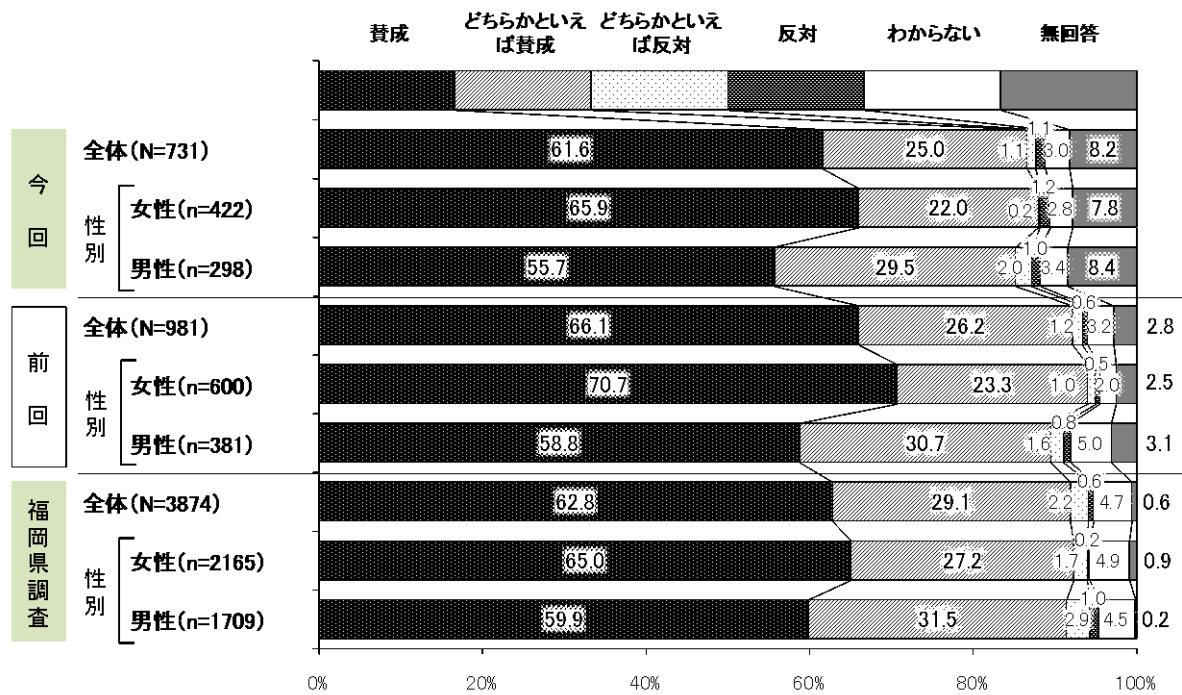
前回調査と比較すると、『賛成派』は前回調査の 92.3%を 5.7 ポイント下回っている。

性別にみると、『賛成派』は女性が 87.9%、男性が 85.2%となっており、大きな差はみられない。

前回調査と比較すると、『賛成派』の割合は、男女とも前回調査の値を下回っている。

福岡県調査と比較すると、『賛成派』の割合は、全体、男女とも福岡県の値を下回っている。

■ (イ) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるように育てる【考え方】(全体・性別) ■



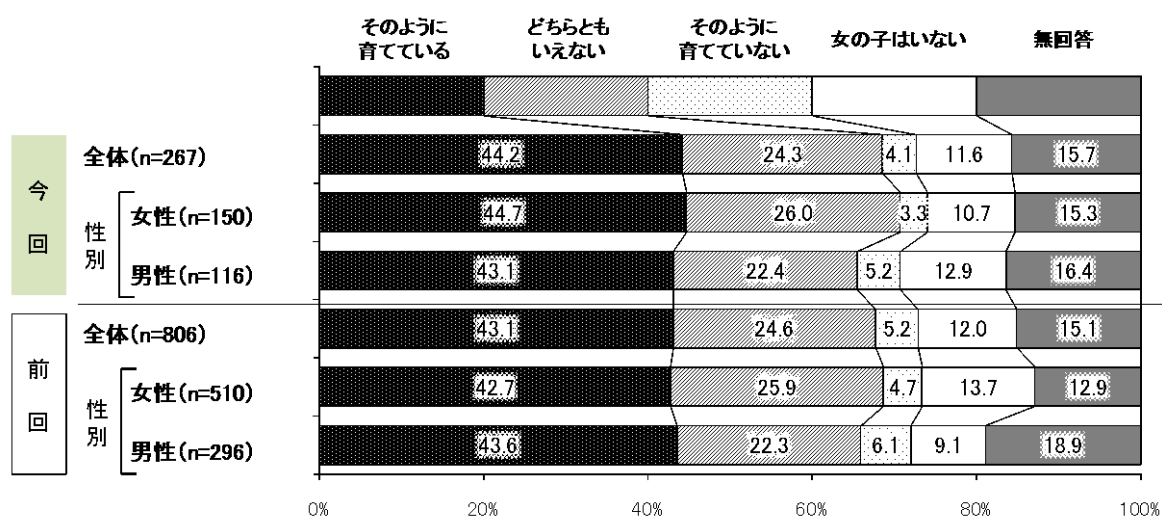
実際の育て方については、「そのように育てている」が44.2%と「そのように育てていない」(4.1%)の割合を大きく上回っている。

前回調査と比較すると、「そのように育てている」と回答した人は、前回調査の43.1%とほぼ横ばいとなっている。

性別にみると、「そのように育てている」と回答した人は、は女性が44.7%、男性が43.1%となっており、大きな差はみられない。

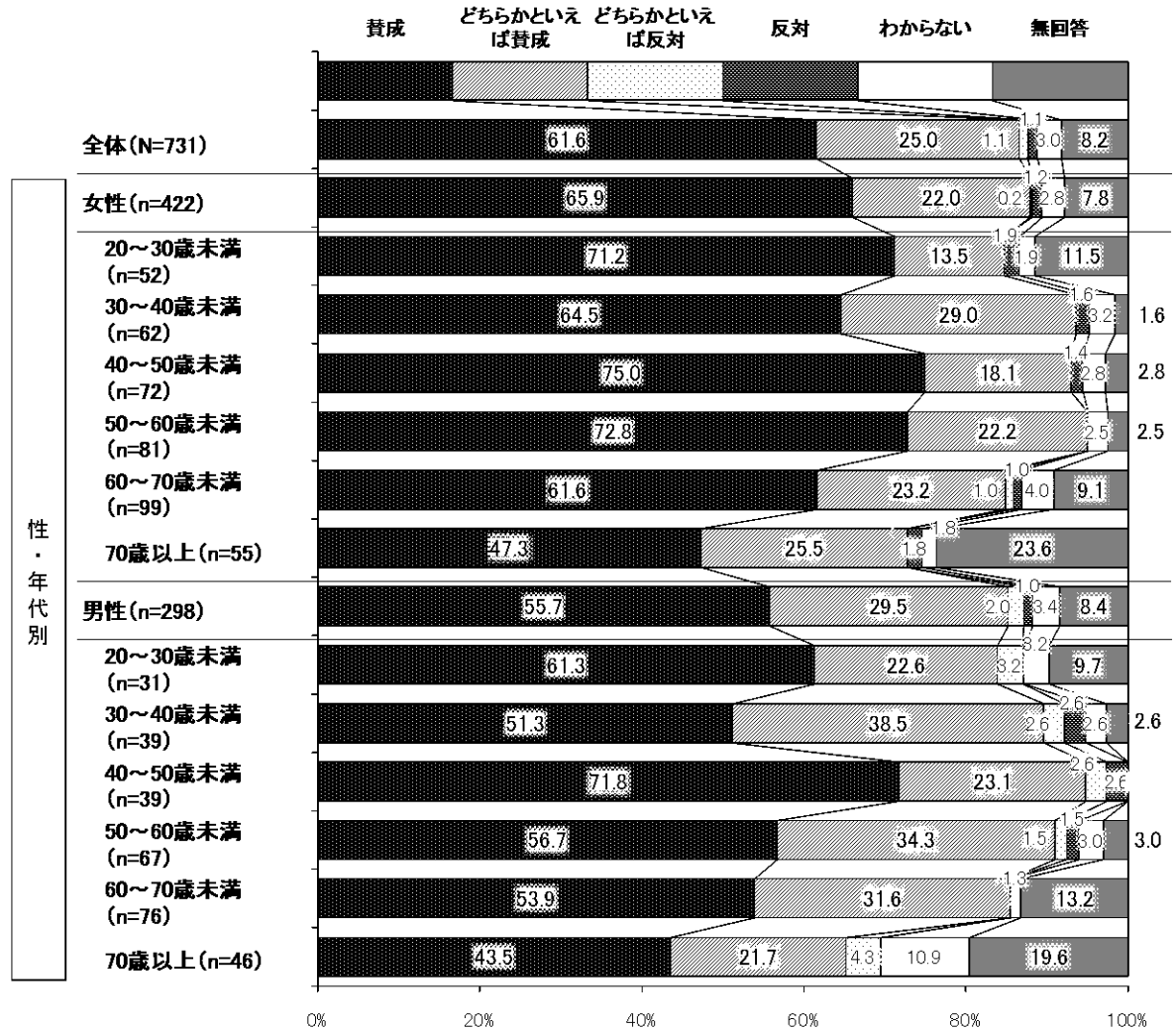
前回調査と比較すると、「そのように育てている」と回答した人は、全体、男女とも大きな差はみられない。

■ (イ) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるように育てる【実際の育て方】(全体・性別) ■



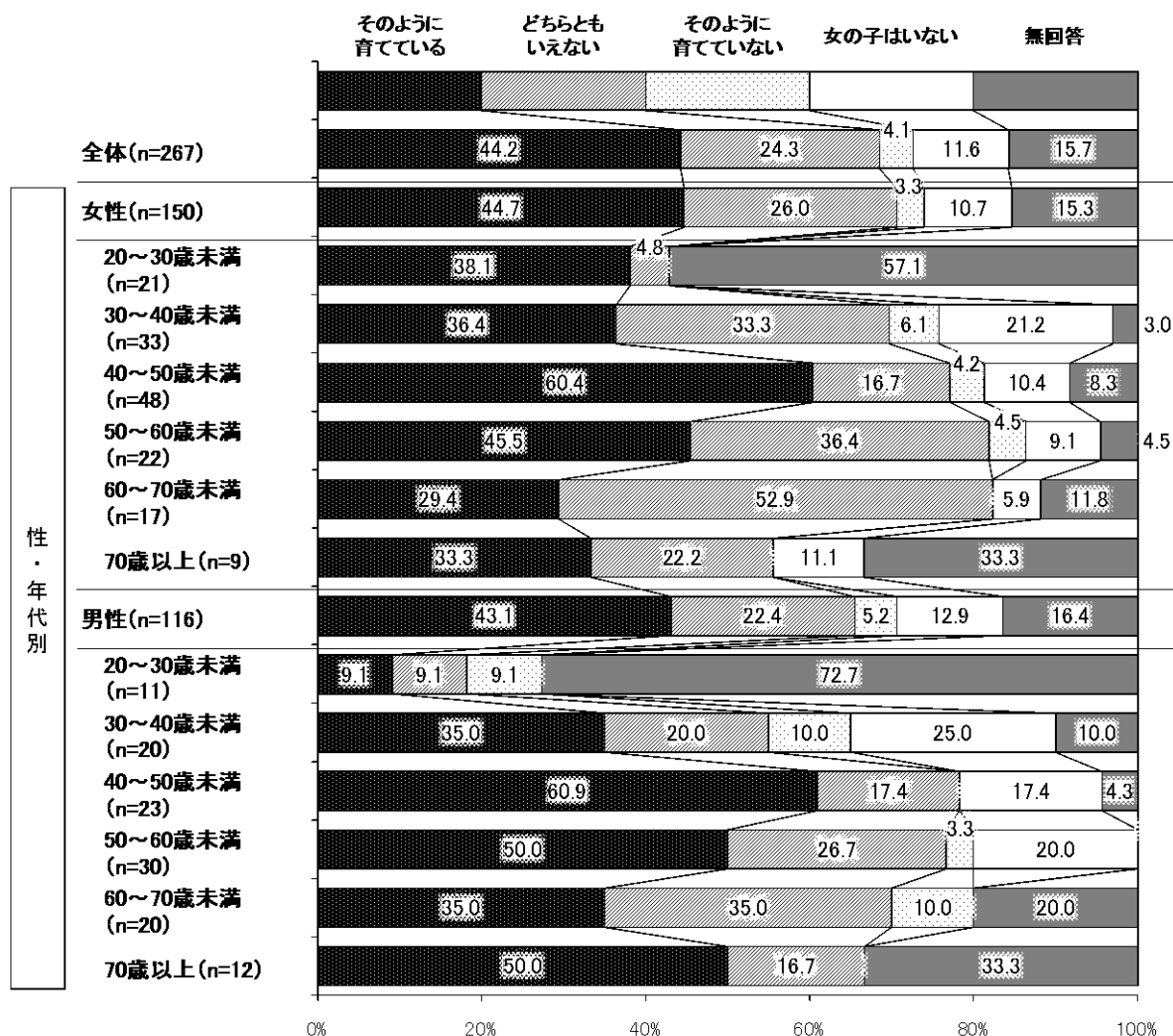
性・年代別に考え方についてみると、男女ともいずれの年代も『賛成派』の割合が高くなっているが、70歳以上のみ他の年代を10ポイント以上下回っている点が特徴的である。

■ (イ) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるように育てる【考え方】(性・年代別) ■



性・年代別に実際の育て方についてみると、女性は「そのように育てている」と回答した人の割合が最も高いのが40～50歳未満（60.4%）で、次いで50～60歳未満（45.5%）、20～30歳未満（38.1%）の順となっている。一方で男性は「そのように育てている」と回答した人の割合が40～50歳未満（60.9%）、50～60歳未満（50.0%）、70歳以上（50.0%）の順となっている。

■ (イ) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるように育てる【実際の育て方】(性・年代別) ■



(ウ) 男の子も女の子と同様に炊事・掃除・洗濯などの技術を身につけさせる

「(ウ) 男の子も女の子と同様に炊事・掃除・洗濯などの技術を身につけさせる」という考え方については、『賛成派』が 84.2%と『反対派』(4.4%)の割合を大きく上回っており、男の子にも家事の技術を身につけさせたいと考えている人がほとんどである。

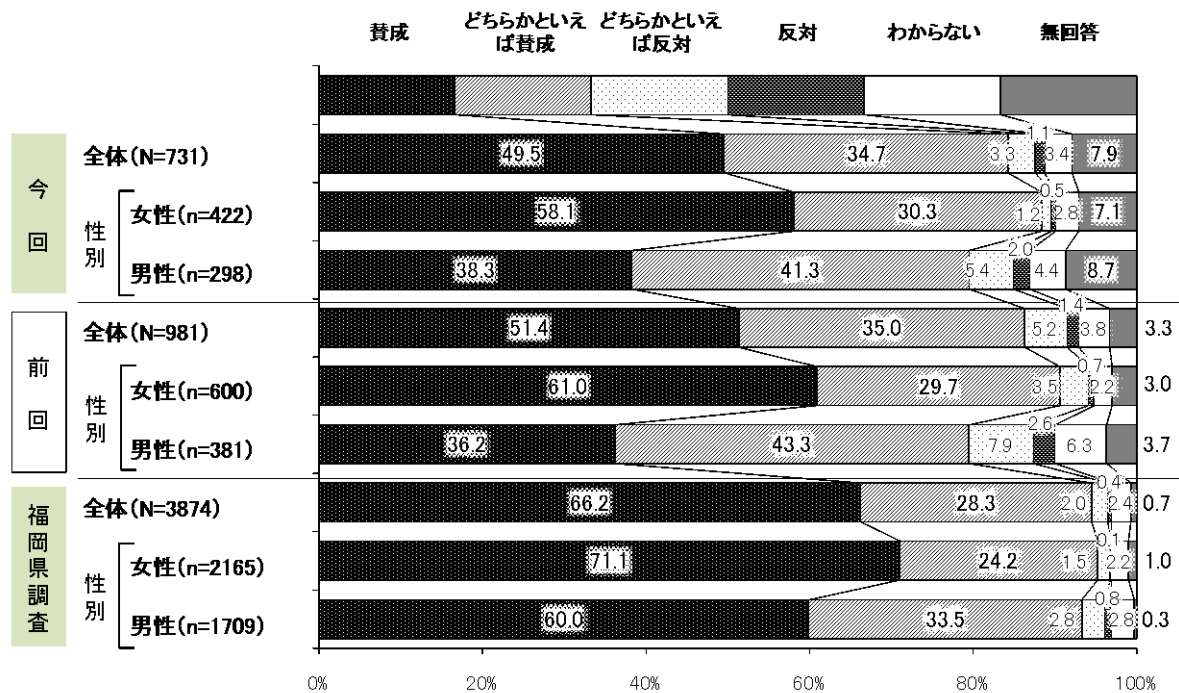
前回調査と比較すると、『賛成派』は前回調査の 86.4%とほぼ横ばいとなっている。

性別にみると、『賛成派』は女性が 88.4%、男性が 79.6%となっており、女性が男性を上回っている。

前回調査と比較すると、『賛成派』の割合は、男女とも若干前回調査の値を上回っているものの、ほぼ横ばいとなっている。

福岡県調査と比較すると、『賛成派』の割合は、全体、男女ともに福岡県の値を大きく下回っており、特に男性は県の値(93.5%)を 13.9 ポイントも下回っている。

■ (ウ) 男の子も女の子と同様に炊事・掃除・洗濯などの技術を身につけさせる【考え方】(全体・性別) ■



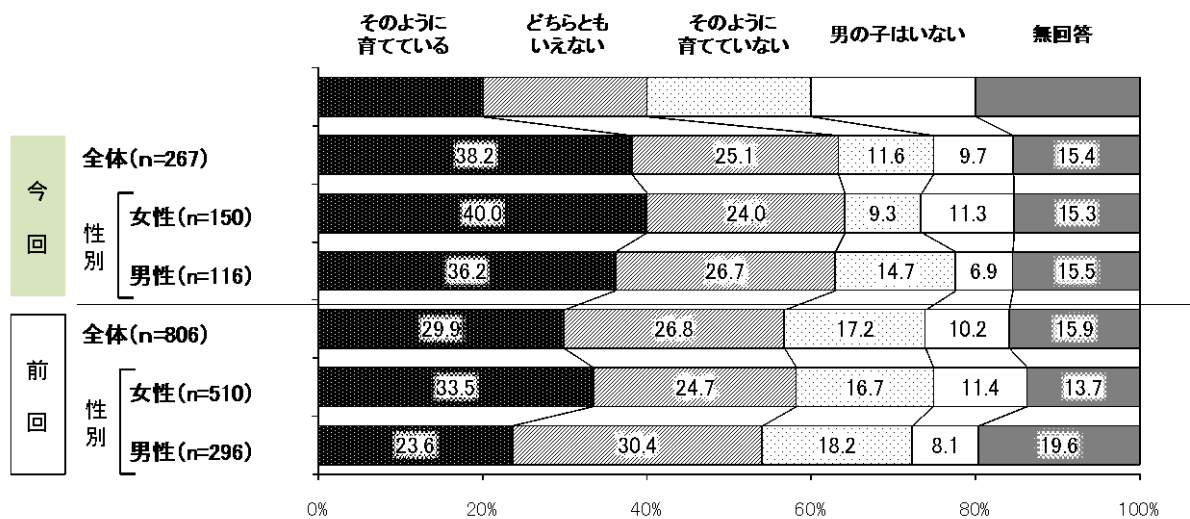
実際の育て方については、「そのように育てている」が 38.2%と「そのように育てていない」(11.6%)の割合を上回っている。

前回調査と比較すると、「そのように育てている」と回答した人は、前回調査の 29.9%を 8.3 ポイント上回っており、前回よりも男の子に家事の技術を身につけさせるように育てている人は増加傾向にある。

性別にみると、「そのように育てている」と回答した人は、は女性が 40.0%、男性が 36.2%となっており、女性が男性を上回っている。

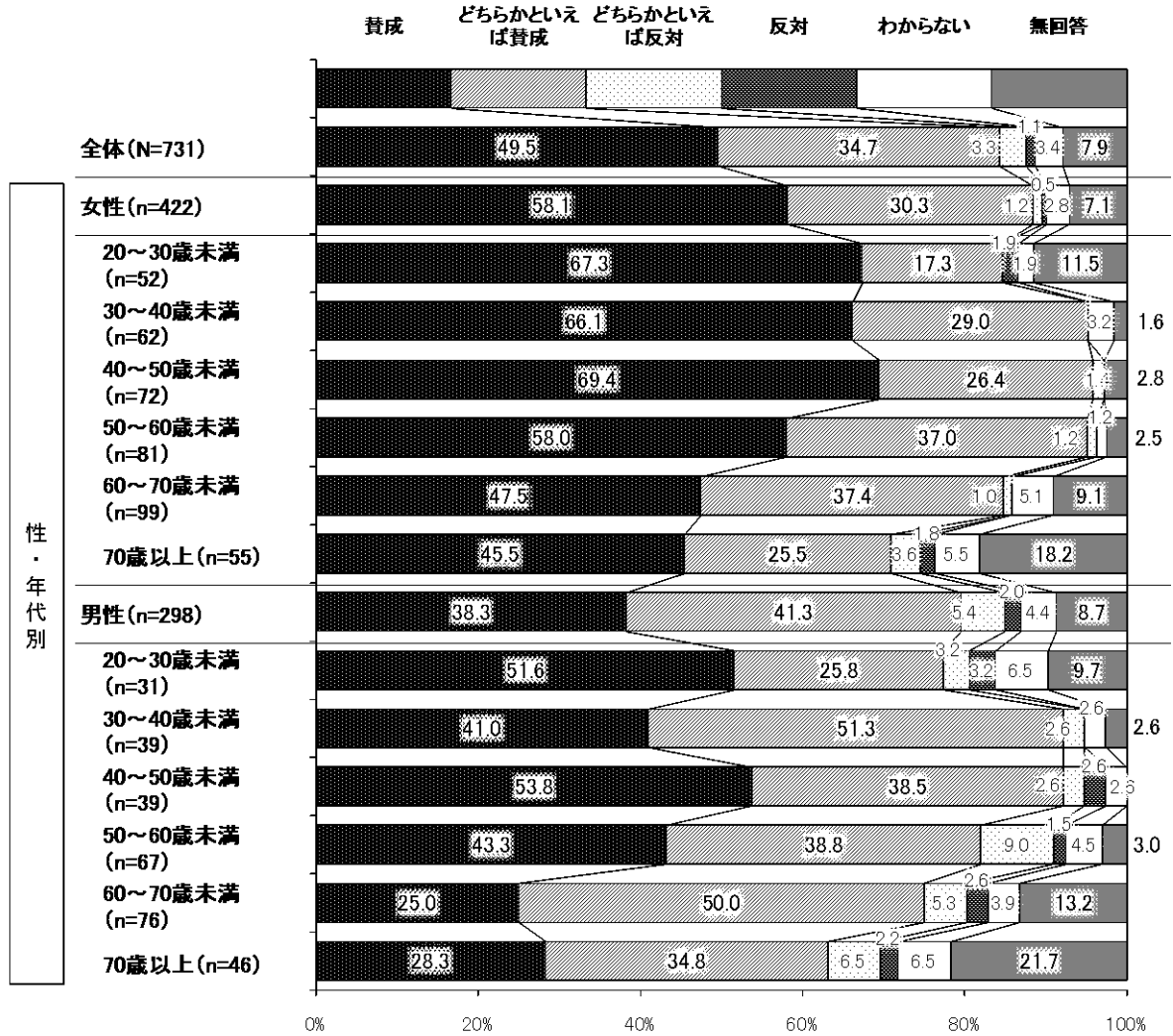
前回調査と比較すると、「そのように育てている」と回答した人は、男女ともに前回調査の値を上回っており、特に男性は 12.6 ポイントも増加している。

■ (ウ) 男の子も女の子と同様に炊事・掃除・洗濯などの技術を身につけさせる【実際の育て方】(全体・性別) ■



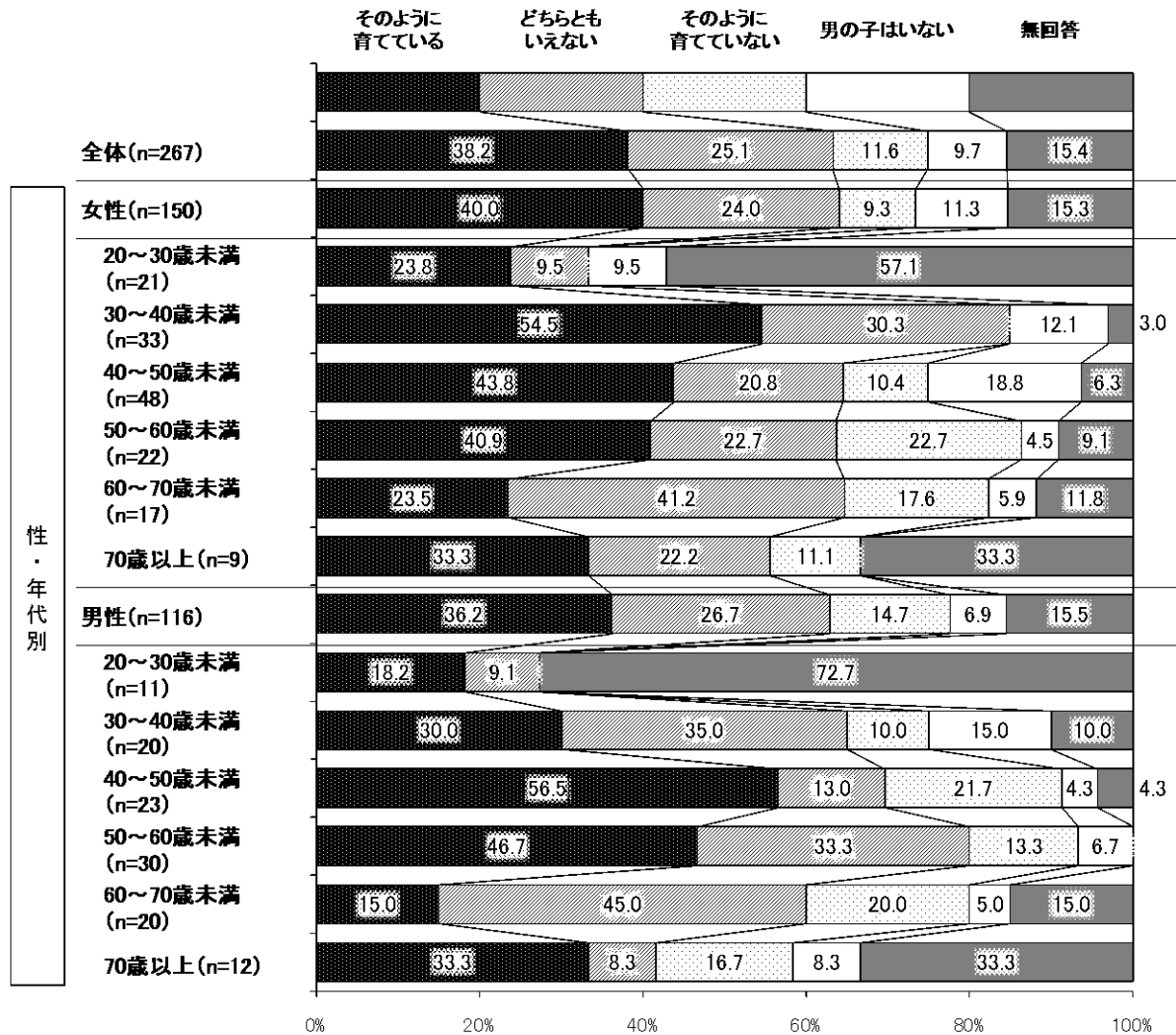
性・年代別に考え方についてみると、男女とも『賛成派』の割合が高いが、70歳以上では他の年代と比べて低くなっている。

■ (ウ) 男の子も女の子と同様に炊事・掃除・洗濯などの技術を身につけさせる【考え方】(性・年代別) ■



性・年代別に実際の育て方についてみると、女性は「そのように育てている」と回答した人の割合が30歳以上で、年代が高くなるほど低くなる傾向がみられる。一方で男性は「そのように育てている」と回答した人の割合が40～50歳（56.5%）、50～60歳未満（46.7%）、70歳以上（33.3%）の順となっている。

■ (ウ) 男の子も女の子と同様に炊事・掃除・洗濯などの技術を身につけさせる【実際の育て方】(性・年代別) ■



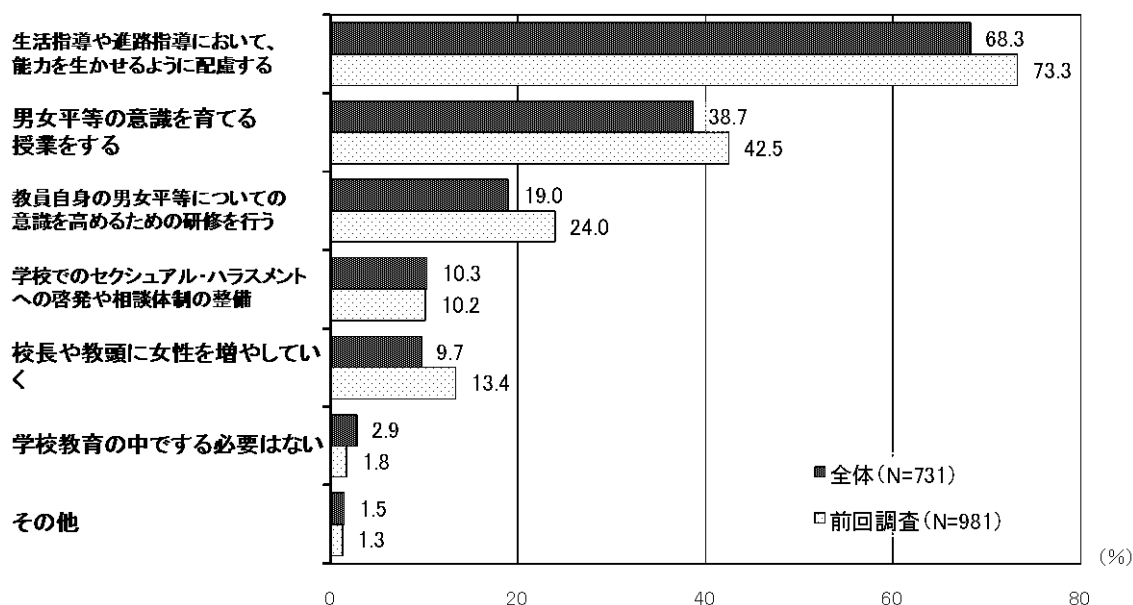
(2) 学校教育における男女平等推進

問8. あなたは、学校教育のなかで男女平等をすすめるために、小・中・高等学校でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇印は2つまで)

学校教育のなかで男女平等をすすめるために、小・中・高等学校でどのようなことに力を入れたらよいか尋ねたところ、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮をする」(68.3%)の割合が最も高く、次いで「男女平等の意識を育てる授業をする」(38.7%)、「教員自身の男女平等についての意識を高めるための研修を行う」(19.0%)、「学校におけるセクシュアルハラスメント問題についての啓発や相談体制を整備する」(10.3%)の順となっている。

前回調査と比較すると、前回第4位であった「校長や教頭に女性を増やしていく」(13.4%)が9.7%に減少し、第5位になっている。また前回から引き続き上位3位を占める「生活指導や進路指導において、能力を生かせるよう配慮する」、「男女平等の意識を育てる」、「教員自身の男女平等についての意識を高めるための研修を行う」についても、前回の値を下回る結果となっている。

■ 学校教育における男女平等推進 (全体) ■



性別にみると男女とも上位得項目については全体と同様の傾向となっているが、「男女平等の意識を育てる授業をする」と「教員自身の男女平等についての意識を高めるための研修を行う」については、男性が女性の割合を上回っている。

前回調査と比較すると、女性では「学校でもセクシュアルハラスメントへの啓発や相談体制の整備」が若干増加している以外は、いずれも前回調査の値を下回っている。男性はいずれも前回調査の値を下回っている。また、男女とも「学校教育の中でする必要はない」が若干ではあるが増加している。

■ 学校教育における男女平等推進（性別） ■

